

乗雲

寺報
第133号
R8/5/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

君に勧む 金屈厄(きんくつし)
満酌 辞するを須(もち)いず
花発(ひら)けば 風雨多し
人生 別離足る

中国、唐の詩人・于武陵の「勸酒」という詩です。これを小説家井伏鱒二が訳した詩が有名です。

コノサカヅキヲ受ケテクレ
ドウゾナミナミツガシテオクレ
ハナニアラシノタトエモアルゾ

「サヨナラ」ダケガ人生ダ
厄除け詩集から

「花に嵐のたとえもあるぞ、サヨナラだけが人生だ」この下二句はよく知られているところです。

人生において、逢う者は必ず別れなければなりません。いずれあの世に参ることになるが、今、美味しいお酒を共に飲めるのも、生きていくからこそ。別れの前に乾杯しよう。



私たちは一生涯でたくさん「出会い」と「別れ」を経験します。特に三月四月は学校、職場で。共に学んだ先輩、後輩、一生懸命に教えてくれた先生方、親しくしていた友と別れ、また次の出会いがあります。しかし、どんな出会いがあっても、最後はお別れです。

「花に嵐のたとえもあるぞ、サヨナラだけが人生だ」

満開の桜も風雨がくれば瞬間に散ってしまうように、さようならを言う時がいつれやってくる。だからこそ「どうぞなみなみ注がしておくれ」と言う。いつでもこれが最後の酒、最後の時とおもって接しよう。一期一会の人の世を、今を、大切に生きようと教えてくれている。「花発けば風雨多し、人生別離足る」は、「諸行無常」「愛別離苦」と言う、まさに仏教の根本のところを表しています。

お釈迦さまは「この世は無常なり、会うものは必ず離ることあり、憂い悩むことなく、精進努力して解脱を求め、智慧の光で諸々の愚かさを滅すべし」と仏遺教経に説かれました。この無常の世にあって、「人との出会い、別れ、喜び、悲しみ、苦しみ、いろんなことがあったが、生まれてきて良かった、今まで生きてきて良かった、たくさんの人にお世話になった、幸せだった、ありがとう」と人生最期に言えるように日々精進したいものです。「ドウゾナミナミツガシテオクレ」

令和八年 年回忌表

「回忌」	「没年」
一周忌	令和七年
三回忌	令和六年
七回忌	令和二年
十三回忌	平成二十六年
十七回忌	平成二十二年
二十三回忌	平成十六年
二十七回忌	平成十二年
三十三回忌	平成六年
五十回忌	昭和五十二年
百回忌	昭和二年

▼令和八年度(2026)の年回忌表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。年忌に当たられている各家には昨年十一月中旬に通知していますので、ご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考え、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。

大本山永平寺住職交代

この度、大本山永平寺の南澤道人貫首（九十八）が退任され、羽仁副貫首が猊座にお付きになりました。四月二十九日に退任し、同日、羽仁素道副貫首（九十一）が貫首に就任なされました。



永平寺第八十一世貫首羽仁素道禪師

羽仁禪師様は群馬県沼田市にある天狗のお寺として有名な迦葉山の住職をなされており、曹洞宗の審事院長、参議等の宗門の要職をなかく務められた大碩徳であられます。迦葉山は過去にも永平寺西堂・故清水浩龍老師、永平寺監院・故大島恭龍老師等を輩出された名刹であります。

大般若法要

期日 六月十日（水）

*折り込み案内を御覧下さい。



大般若転読

▼柴橋庵先住忌

四月三日、柴橋庵十一世徳雲貞乗和尚の十三回忌法要をお勤めました。

■訃報 西本町 坂上貞夫氏逝去

三月五日寂、享年九十四。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 八田 井上雄策氏逝去

四月十七日寂、享年九十六。長年当寺檀徒総代として尽力されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆寺院葬◆

乗雲閣（位牌堂）ホールで
通夜・葬儀ができます。



乗雲閣 1F ホール

▼コロナ感染症以後、葬儀の形態が変わりました。家族や近親者のみの小規模葬が一般的となり、葬儀社会館での葬儀も少人数で執行されています。当寺位牌堂ホールでの通夜、葬儀は控え室もあり、万一の場合には控え室に搬送しお寺から出棺も可能です。ご利用ください。

秋の仏教講演会

期日 10月6日（火）
時間 午後1時30分より3時
会場 広厳寺
参加費 500円
講師 千葉公慈 先生
演題 仏教のいま、これから
一生きる力に目覚めるために一



新潟県曹洞宗第四宗務所
テレホン（WEB）法話

おしょうさんの言の葉



和尚さんの言の葉
曹洞宗新潟県第四宗務所（所長 新潟市観音寺住職阿部正機師）では宗務所管内寺院によるテレホン法話を聞くことができます。和尚さんのお話をお聞きください。

不思議な犬の話

動物は人間にはない不思議な力を持っていきます。危険を察知して人を助けたり、飼い主の気持ちを感じて寄り添うこともあります。私が子どもの頃、師寮寺で犬を飼っていました。一緒に育って大きくなってよく遊んでいました。犬は寿命が短く、短い命の間に沢山の力を与えてくれたことを思い出します。

私は七年前に四国八十八カ所を巡礼しました。徳島の霊山寺から始まり、高知、愛媛と巡り、香川の大窪寺で結願です。各お寺ではご本尊様とお大師様に読経、参拝後、御朱印帳や御軸に朱印を頂戴します。直筆は有り難いものです。

さて、不思議な犬とは、愛媛県にある六十番札所の横峰寺を参拝した時のことでした。その寺は石鎚山系の高地にあり遍路の中でも難所でした。登山口からお寺までの道のりを歩き出した時、一匹の犬が付いて来ました。そして、私の前で先導を始めて、私が止まると一緒に止まり、歩くと歩き始めます。楽しそうな感じで林の中に隠れた

と思ったら、少し先で待っていたり、参拝中も近くで待っていて離れようとしませんでした。帰り道も一緒です、登山口まで戻って来たらず然と離れて行きました。後日、横峰寺に電話をして聞いてみたら、昔はそういう犬がいたが、今は全くみかけないと言っていました。

次のような伝説もあります。昔、五十七番札所仙遊寺と五十八番札所栄福寺を兼務していた住職の使いとして二つの寺を行き来する愛犬がいました。この犬は後に行き来する途中にある池に落ちて亡くなってしまうそうです。この池は犬塚池と言い、供養の犬塚があつて、側にお墓が建てられました。私が横峰寺で出会った犬は、人か動物か、どこかで親しかった尊い命だと思つています。今、雲泉寺の私の部屋にこの犬の写真を置いてあります。「あの時はありがとう」と手を合わせます。

雲泉寺住職 神田恭真

私たちは何処でどんな出会いがあるか分かりません。とても大事にしたい素晴らしいご縁でした。

境内風景

- ・三月四日～六日 境内墓地清掃 高橋土建
- ・三月十五日 彼岸前位牌堂掃除
- ・三月十六日 冬囲い外し
- ・三月二十四日 墓地花片付け
- ・四月二日 墓地ゴミ処理 小野工務店
- ・四月～ 柴橋庵清掃
- ・四月十六日、十七日 墓地除草剤散布 高橋土建
- ・通年 本堂・位牌堂清掃(週一回) シルバー人材センター



乗雲閣前の桜

仏事の知識

無縁墓

当寺には何年もお参りの方が来た形跡がない墓がいくつかある。墓に刻んである〇〇家、建立年号などから調べてももう既に絶えてしまっていたりする。年を経るにつれ、老朽化し、汚れもひどく、墓石にひび割れがあつたり傾いてきたりしている。そのようなお墓を無縁墓と言っている。

このような状態のお墓は法律に定められた方法で何度か告知し、身元を探し、一定期間を経ても連絡がない時は撤去処分し、遺骨は当寺の合同供養塔(合祀墓)に移され無縁精霊として供養されることとなる。今はお参りがあるお墓であつても、いずれそうなるかと分かっていながら、墓継承者や親族が決断して、永代供養墓に移ることも考えてみる必要がある。

*今までの仏事の知識は当寺ホームページでご覧いただけます。

仏事の知識



口涅槃聖苑(ねはんせいえん)

昨年建立したお墓は、「個人集合型合葬墓」と言い、永代供養を希望する方のお墓です。



近年は、一、経済的にお墓を維持するのが難しい、二、子どもが地元を離れているのでお墓を建てても継承ができない。三、単身で身寄りがなく後継者がいない等の悩みや不安を抱えている人が多くなっています。この合葬(集合)墓は個別に安置できます。七回忌まで安置しその後合祀供養になります。また、将来後継者がいなくなり墓終いを考えている方も合葬できます。詳細はお寺へお尋ねください。

▼近隣寺院の行事

- ・四月二三日 西条 大總寺般若
- ・五月 九日 東本町大輪寺般若
- ・五月 十日 大須戸東泉寺

般若・先住忌

- ・五月十七日 黒川 長谷寺般若
- ・五月二四日 下館 増慶院般若
- ・五月三一日 持倉 正統寺般若
- ・五月三一日 春木山西法寺般若
- ・六月十六日 東牧 東牧寺般若
- ・七月 一日 平林 千眼寺般若
- ・八月 九日 山屋永徳寺施食会

▼花祭り

五月十日、西栄町善良寺様を会場に胎内市仏教会主催のもと、白像行進稚児行列とお釈迦さまの生誕法要(花祭り)が開催される。

▼胎内市戦没者慰霊祭

八月二十六日仏式にて開催される。会場は市産業文化会館。胎内市仏教会寺院が法要を務める。

東龍寺眼蔵会

田上町東龍寺様では七月九日(十一日)眼蔵会(道元禪師の著書・正法眼蔵の講義)を行う。講師は駒沢大学教授・角田泰隆老師。今年で第二十三回目の開催となる。

お寺からのお願い

▼位牌堂の各家位牌壇のローソク、お線香について お寺で用意したミニローソク、お線香をご使用ください。お線香は香炉から灰がこぼれないように真つ直ぐに立て、お参りが済みましたら点したローソクは火災予防の為必ず火を消してください。各家のお仏壇のお線香、ローソク使用の際にもご注意ください。

▼墓地の自然ゴミ(枯れ枝、枯れ草、枯れたお供えのお花等)は、お寺で業者に依頼して処分しますが、それ以外のお花を包んであった紙、ビニール類、お墓掃除のたわし、雑巾、洗剤容器、欠けた茶碗、ペットボトル等は捨てないでください。各自持ち帰って処理してください。

▼古い塔婆は、参道中程に「古塔婆入れ」用意してありますのでご利用ください。集落墓地の古塔婆も持ちください。

▼お墓のお参りの際は、墓地の枯れ草等乾燥してありますので、ローソク、お線香を点す際は火の取り扱いに十分注意してください。

*墓地美化にご協力お願いします

寂光塔(永代供養墓地)

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。



寂光塔(永代供養合同墓所)

動物供養塔(ペット墓地)

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外でも納骨供養できます。



動物供養塔(ペットのお墓)

